

課外活動団体組織 新代表者決定

課外活動団体組織の新代表者が選出され、新体制が発足した。本学の課外活動団体は「文化団体連合会」「体育団体連合会」「音楽協議会」「演劇協議会」「同好会愛好会連合(体育系・文化系)」の5つの組織と、その他代表団体および未組織団体によって構成されている。

新たに代表者を選出した「体育団体連合会」「音楽協議会」「演劇協議会」の3つの組織に、所属団体の活動内容や団体組織代表としての抱負などを聞いた。

【体育団体連合会(42団体/1,534人)】

新委員長は体育会ラグビー部の佐藤豪さん(法法3)。ラグビー部は、関東大学対抗戦Bリーグに所属し、週6回の練習とウエイトトレーニングに励んでいる。部では育成体制に力を入れ、初心者から全国大会出場経験者まで幅広く試合で活躍している。15人で繋いだボールがトライに結びつき、接戦を制したときに達成感が得られるという。

「今期は『強化』に注力し、体育会活動環境の整備と体育会所属の学生数増加を目指す。これまで熱い上智を目標に活動してきたが、強く勝てる上智の実現にシフトしていく。まずは上南戦で圧勝し、強い上智を見せていきたい」

【音楽協議会(10団体/480人)】

吹奏楽団(SMB)の亀谷さくらさん(文独2)が新代表。SMBは「生涯音楽を楽しむ」ことをモットーに活動し、ジャズ・ポップス・クラシックなど幅広いジャンルの曲を扱っている。12月の定期演奏会をはじめとするコンサートに向けて練習に励んでいる。

「音楽協議会としては年に数回、協議会に所属する団体が参加するコンサートを主催している。音楽という共通点から集まった様々な演奏者らが、新たな交流の機会や音楽の形を見つける場を創造していくと同時に、活動を通して感じた音楽が持つ力を広く伝えていけるよう、メンバーと共に尽力したい」

【演劇協議会(6団体/105人)】

上村幸穂さん(文仏2)が新会長。所属する劇団ソフィアトリスクエアは、1号館講堂で年に数回オリジナル脚本による公演を開催している。脚本や演出、役者だけでなく、音響や照明、舞台といった裏方も自らで協力しながら作り上げている点が特徴であり、公演に向けて日々活動に取り組んでいる。

「演劇協議会は各団体が滞りなく公演に取り組めるようサポートしている。一から自分たちで作り上げるためにも、幅広い技術の継承と周知が課題である。今年度は新メンバーを多く迎えて、技術の引継ぎに努めたい」



佐藤豪さん



亀谷さくらさん



上村幸穂さん

ユエン凱さんがプロ野球独立リーグに挑戦 福島レッドホープスにドラフト1位で入団

12月、プロ野球独立リーグに加盟する福島レッドホープスにユエン 凱さん(国教4)が入団し、プロ野球選手としての一步を踏み出した。



関東地方5県と福島県、山梨県、長野県を活動拠点とし、06年に独立リーグとして設立されたルートインBCリーグ。同球団は福島県に活動拠点を置き、各県を拠点とする全8チームが2地区に分かれリーグ優勝を目指して争う。

投手としてルートインBCリーグドラフト1位で指名されたユエンさんが背負う番号は18番。185cmの長身右腕から投げ込まれる最速145kmのストレートとキレの鋭いスライダーが武器だ。「攻めの投球で空振りを狙っていききたい」と抱負を語る。

2月から始まる福島での単身生活には、4年間の思い出が詰まった上智の野球帽とチームメイトから贈られたアルバムを持参するという。家族からは「自分で切り開いた道。後悔しないよう全力を出し切っておいで」と送り出された。

ユエンさんは、カナダのSt. Joseph High Schoolを経て20年9月に本学に



硬式野球部を引退してからもプロ入りに向けて体を作り直した

入学。硬式野球部に入部し、1年生時からリリーフとしてピッチャーマウンドに立った。

「入部してしばらくは球速にこだわって過ぎて自分本位の投球をしていたせいか、なかなか思うような成績が残せませんでした。学年が上がるにつれ、試合を作る投球を意識したことで制球が安定し、その意識の変化がドラフト指名にも繋がっていたんだと思います」

大学を卒業してからも絶対に野球を続けたいと模索し、自分で掴んだ夢の舞台。「自分を迎え入れてくれたチームの期待に応えて恩返しできるようなプレーをし、福島の人に希望や元気を与えられる選手になります」と熱意をのぞかせた。

ひと

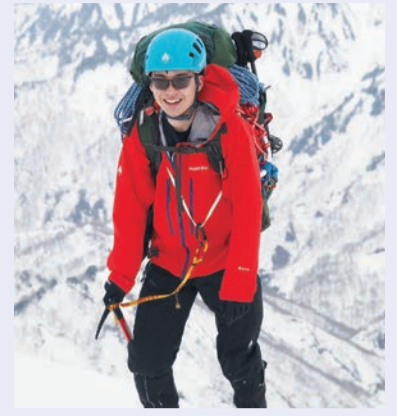
新しい景色を目指して 次の山頂へ

日本各地の山脈踏破をチームで目指すワンダーフォーゲル部。未経験で入部し、67期主将として73人の部員をまとめ上げてきた渡辺龍さんは「大自然への畏敬の念を抱きながら『生きる』ことに向き合えるスポーツ」と話す。

入部後、初めてチャレンジした瑞牆山の山頂に広がる眺望は、想像をはるかに超える絶景だった。瑠璃色の空、遠くまで広がる雄大な山々、豆粒ほどに小さく見える都市。これまでインドア派だった渡辺さんにとって、全く新しい世界がそこにあった。「入部してからは、精神面もかなり鍛えられましたね。追い詰められてからの一歩が踏み出せるようになったし、泥だらけの状態でも数日くらいシャワーを浴びなくてもへっちゃらです」

登山には、足腰や体幹を鍛えるトレーニングのほか、天候を予測し、地形を読む技術も必要になる。「登頂の際は、メンバー全員が無事に帰還できるよう綿密な計画を立てます。道中に危険な岩場がないか、万が一の際はどこで救護を要請するか、常に頭に入れています」

それでも、自然相手のスポーツは時として命を脅かす。残雪期、2泊3日で挑んだ巻機山。越後山脈に連なる日本百名山のひとつだ。「最終日、右足の負傷を抱えたまま、長い



経済学部経済学科3年 渡辺龍さん

尾根の上で何度も足が止まりました。目の前には雪崩の跡、一步踏み間違えれば崖下へという状況。ヘリへの救助要請も頭をよぎるなか、なんとか窮地を脱し、民家が見えてきたときは、まさに『自分は生きてるんだ』と感じた瞬間でした」

危険が伴うなかでも山頂を目指すのは、日常では決して出会う事のできない景色のためだ。「野生のカモシカやライチョウ、これまで知らなかった信仰対象としての山の存在。地形を生かした山岳農業の知恵や、現地の人々との出会い。山を通して自分の世界が広がっていくのを実感しています」

Wandervogel-その言葉が意味する渡り鳥さながら、雄大な自然を感じながら各地を渡り歩き、自分の世界を広げていく。「仲間とともに困難を乗り越え、分かち合った経験が、次の山頂への一歩となります」

おつまみを買いたくなる 投稿が話題を呼ぶ 経済学部の学生が なとりと共同キャンペーン

11月末～12月上旬にかけて、経済学部・小阪次郎講師のゼミと株式会社なとりが共同で「#あなたのタラ採用します!クリスマスのごと投稿キャンペーン」をX(旧Twitter)上で実施した。

この企画は、製品開発論を専門とする小阪ゼミに所属する学生の「自分たちが本当に買いたくなるプロモーションを企画したい」という思いと、同社の「おつまみをもっと若い方に知ってほしい」という思いが重なり、産学連携の一環として実現。学生は、ゼミの授業を通じてなとりの社員から食品業界のマーケティング戦略などを学び、チーム対抗で若者向けのプロモーション企画を立案した。

その中で最も優れたアイデアとして

採用された本キャンペーンは、主力製品の「チータラ」「チーズ鱈」にちなんで、クリスマスの願い事の語尾に「タラ」を付けてX上に投稿するというもの。斬新な企画が話題を呼び、一般から2700件を超える投稿が寄せられた。「あなたのお願いが叶うで賞」には「サンタが枕元にチータラ置いてくれタラ」などが選出された。

小阪講師は「SNSを使って気軽に参加できる言葉遊びが、おつまみの手軽さと調和して、効果的なプロモーションになっている。こうした企画を通じて、学生が学びを得るとともに、企業側にも新鮮さを感じてもらえていたらと思う」と振り返った。



実際に商品を手に取り企画を考案する学生

上智大学通信が冊子版として フルリニューアルします

2025年度に広報紙『上智大学通信』がフルリニューアルします(新名称は未定)。

上智大学通信は大学と学生およびそのご父母・保証人、教職員とのコミュニケーションを深めることを目的に、本学の教育・研究活動、学内の行事やイベント、話題などをお届けしてきた広報媒体です。今回のリニューアルでは、本学の取り組みや魅力をより効果的に発信し、国内外の読者にとってさ

らに親しみやすい媒体を目指します。

新しい上智大学通信では、日本語と英語の二言語表記になります。また、デジタルブック形式でのWeb公開もあわせて行うことで、国内外の幅広い読者がアクセスしやすくなります。そして、タブロイド版から冊子版へと形態を変更し、年2回(夏・冬)発行の新しい広報誌として生まれ変わります。

創刊号は2025年夏に発行予定です。新たな広報誌にどうぞご期待ください。

※現行の上智大学通信は、次号(3月発行予定)が最後になります。